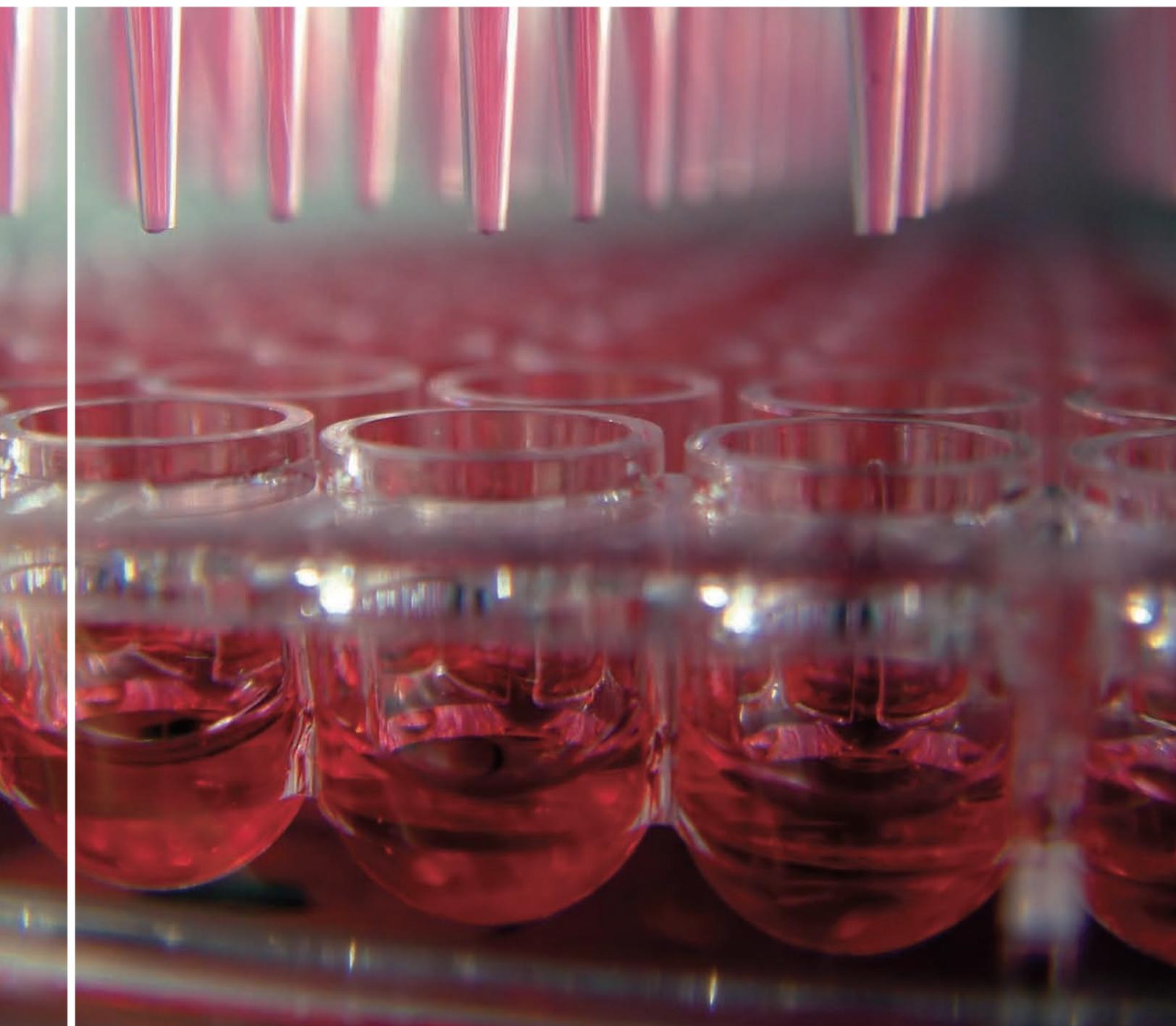


2009

インベスト イン カナダ バイオ医薬



カナダにおける近年の投資例

- » 米国マサチューセッツ州の**Charles River Laboratories International**は、2009年にケベック州に前臨床試験サービス施設を開設する予定で、最終的に1,000人の雇用が見込まれている。
- » フランスの**Sanofi Pasteur**は、2008年にオンタリオ州に新設されたR&D施設に対し、1億ドルの投資を行った。
- » **GlaxoSmithKline**ではカナダのR&D施設に対し、2007年だけを見て1億7,800万ドルの投資を行った。グラクソ・スミスクライン社は、ノバスコシア州、ケベック州、オンタリオ州、アルバータ州、プリティッシュコロンビア州に施設を有し、カナダ全土で事業展開を行っている。
- » Novartisグループの一事業部門である**Sandoz**は、2007年に発表した8000万ドルの投資プロジェクトの一貫として、2008年に製造工場をケベック州に開設した。
- » ドイツの**Boehringer Ingelheim**は、3,600万ドルを投資してケベック州に複数の最新鋭の研究所を新設するプロジェクトを2008年に完了させた。

カナダに投資する世界的な大企業

Amgen
AstraZeneca
Bayer
Bristol-Myers Squibb
Eli Lilly
GlaxoSmithKline
Hoffman-LaRoche
Johnson & Johnson
Jubilant Organosys
Merck Frosst
Novartis
Novopharm
Pfizer
Sandoz
sanofi-aventis

カナダの大手企業

Angiotech Pharmaceuticals
Apotex
BioMS
Bioniche Life Sciences
Biovail
Cangene
Cardiome Pharma Corp.
ImmunoVaccine Technologies
Medicure Inc.
Theratechnologies
Transition Therapeutics Inc.
Trillium Therapeutics

カナダはバイオ医薬品の研究開発 (R&D)、臨床試験、製造面において特に優れた強みを持ち、世界のバイオ医薬産業界において主要な役割を果たしている。世界トップ10の収益を誇る医薬品企業はすべてカナダで事業展開を行っており、うち数社はカナダでR&Dおよび製造部門の独立運営子会社を展開している。

2007年の世界の医薬品売上高は合計6,635億米ドルに達した。同年カナダのバイオ医薬部門では176億ドル*の売上を記録し、その輸出額は63億ドル近くにのぼった。またそうした輸出のおよそ80パーセントは米国市場向けだった。2007年時点でカナダには397社の製薬企業および404社のバイオテクノロジー企業が拠点を構え、これら企業の国内での雇用者数はおよそ2万9,000人に達した。

カナダには一流の学術機関や、先進的な世界レベルの科学・研究・臨床ネットワーク、高度な技術を有する労働力、革新を促す協力的な環境、そして多くの事業協力の機会などが豊富に存在している。世界的なバイオ医薬企業にとってまさに格好の場であり、活力に満ちた革新的な事業環境を提供している。

主な利点

研究開発：発見段階から第3相のピボタル試験まで、カナダのR&D部門では、被験者の素早い獲得や、臨床試験実施基準 (GCP) を厳格に順守した治験、高品質で確固としたデータの生成が可能となることが高く評価されている。17校の医科大学や100以上の教育病院のおよそ3万人の治験医師から成る研究コミュニティを誇るカナダでは、2007年バイオ医薬関連の研究開発に13億ドル以上が費やされた。カナダはG7の中でも医薬品研究に関する特許の分野で主導的な立場にあり、世界中の臨床試験のシェアでは世界第4位に位置している。

製造：多くの主要な製薬企業はカナダに製造施設を設置している。米国市場に近接し、アクセスが容易なことから、カナダは高品質かつコスト面で競争力の高い北米の製造ロケーションとなっている。さらにカナダは、パイロット段階から本格的なスケールアップ生産段階まで、小分子製剤および生物製剤のGMP製造 (GMP：製造管理及び品質管理規則) に関する世界レベルの専門技術を有しており、世界最大の後発医薬品メーカー、Apotexの本拠地にもなっている。

医薬サービス：カナダには世界的レベルの医薬品サービス企業が多数存在し、研究開発、臨床試験、製造、その他ライフサイエンス産業で必要とされる業務サービスに対し高品質なサポートを提供している。



カナダのバイオ医薬産業は、
2007年の売上高が176億ドル、
輸出額が63億ドル近くに達し、
世界で中心的な役割を果たしている。

※：IMS Health Canada出典
他に特に記載のない限り、表示額の通貨単位はすべてカナダドル。

カナダの主なクラスター

ブリティッシュ・コロンビア州

ブリティッシュ・コロンビア州のバイオ医薬部門は、合計2,200人の従業員を擁する90社以上の企業から成り、年間収益はおおよそ7億7,900万ドルにのぼる。同州のバイオ医療部門の柱となっているのは収益性のあるバイオ医薬企業としては世界初となったQLTおよびAngiotechである。**バンクーバー市**にあるB.C. Cancer Agency、B.C. Centre for Disease Control、ブリティッシュ・コロンビア大学には世界をリードする最先端の州研究施設が存在する。

マニトバ州

40以上の企業、30のR&D研究施設、23のサービス企業、4,200人の従業員を抱える**ウィニペグ市**のライフサイエンス産業クラスターは、バイオ医薬の研究開発および製造に関する優れた能力を誇っている。カナダの2008年ライフサイエンス企業上位10社のうち3社である、Diamedia、Kane Biotech、Samuneが同市を拠点としている。カナダで3番目の医薬品輸出量を誇る同地域の製造活動はCangene Corporation、Apotex Fermentation、Biovail、Vita Healthが中心となって行われている。

カナダ公衆衛生局があるマニトバ州は感染症の特定・管理分野における世界的に卓越した拠点であり、カナダで唯一バイオセーフティレベル4の実験室を持つ。同州のバイオ医薬産業クラスターでは、感染症、循環器・呼吸器病学、腫瘍学、神経科学、栄養補助食品および機能性食品、診断法を中心とした研究が行われている。

アルバータ州

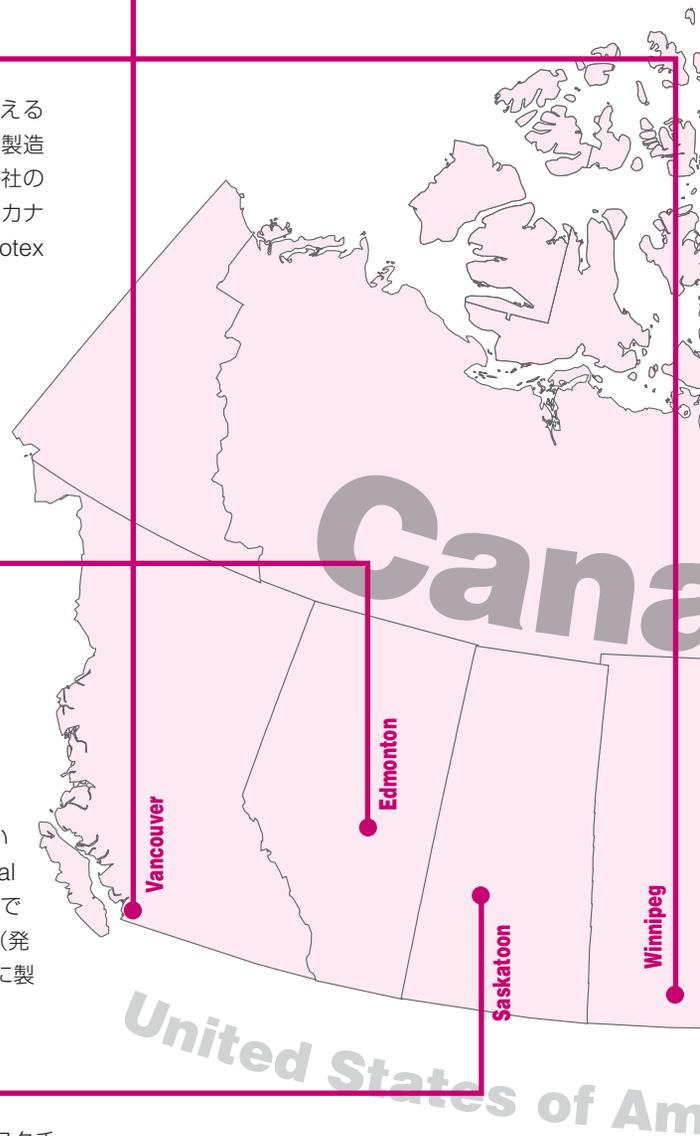
エドモントン市には世界的に著名な研究者や公的支援を受けた最先端の施設をかかえ、バイオ医療研究に格好の機会を提供している。エドモントン市のアルバータ大学、カルガリー大学、およびレスブリッジ大学では非常に優れた一次調査の環境が整っている。主な成功例には、1型糖尿病治療のためのエドモントン・プロトコール、癌のイメージング診断および治療、神経イメージング、心臓病および感染症治療の最先端研究などがある。

アルバータ州では民間セクター企業が研究開発環境にさらなる深みを与えている。企業例としては、様々な硬化症に対する治療法を開発するBioMS Medical Corporation、癌治療用の製品開発を行うOncolytics Biotech Inc.、受託研究企業であるNAEJA PharmaceuticalsおよびChemroutes Corporation、GMP委託製造（発酵）企業であるQSV Biologicsなどがある。またGilead Sciencesもエドモントンに製造施設を構えている。

サスカチュワン州

サスカチュワン州には臨床試験や、冠動脈疾患、癌、糖尿病、ウィルス感染症のワクチン開発や治療法の発見に携わる数多くの優れた研究施設がある。同州にはBioniche Life Sciences Inc.やPOS POS Pilot Plantなど、業界をリードする数多くの企業が存在する。

サスカトゥーン市のカナダ国立研究所—Plant Biotechnology Instituteではカナダ人の健康改善に役立つ植物由来製品の開発に取り組んでいる。世界初の5つの動物ワクチン研究で知られる非営利団体のVaccine and Infectious Disease Organizationでは、その対象を人体用へと拡大し、インフルエンザやC型肝炎による被害を食い止める努力や、新生児および開発途上国の人々への効果的なワクチンの不足問題に取り組んでいる。



オンタリオ州

トロント市は北米最大のバイオ医薬産業クラスターおよび医療コミュニティのひとつとして数えられる。クラスターの中心には、MaRS CentreやDonnelly Centre for Cellular and Biomolecular Research、研究病院、専門機関、先進ライフサイエンス企業などが集まるディスカバリー地区がある。これらすべてが集まり、トロント・エリアはゲノミクス、プロテオミクス、バイオインフォマティクスの分野において最先端の研究中心地となった。医薬品製造業者のネットワークが集まった流通拠点として知られる同エリアは、医薬品製造分野においても多大な専門技術を育んできた。トロント・エリアにはBayer、Eli Lilly、GSK、Sanofi Pasteurなど、世界有数のバイオ医薬企業が集まっている。

オタワ市はバイオテクノロジー産業が持つ潜在的なビジネスチャンスにカナダの中でもいち早く注目し、投資を行ってきた都市のひとつである。R&D、臨床研究、および医薬品製造の中心地である同市にはカナダ国立研究所や20のライフサイエンス関連の研究機関が存在し、研究開発費用として年間で推定3億5,000万ドルが投資されている。オタワ市で事業展開を行っている企業には、MDS Nordion、Variation Biotechnologies、Abbott Point-of-Care、Best Medical Canada、などがある。

ケベック州

モントリオール市には、北米で最大かつ最も重要なバイオ医薬産業クラスターの1つがある。基礎研究と受託研究の拠点のトップとして、同市は革新的な製品の開発および製品化に加え、バイオテクノロジー関連ベンチャー企業への出資にも力を入れている。およそ1万5,000人が従事する同市の産業クラスターには、臨床研究の豊富な専門技術があり、バイオインフォマティクスおよび医療技術における大胆で活動的な起業家が集まる中核となっているほか、特許製品や後発製品を製造する企業の拠点となっている。

ワクチン製造や、治療用タンパク質のバイオ製造におけるトップレベルの専門技術を誇るモントリオール市は、優れたR&D拠点としても定評があり、マギル大学およびGénome Québec Innovation Centre、そしてBiotechnology Research Instituteといった著名な国際研究センターの数々を擁する。モントリオールで事業展開を行っている世界的な企業には、AstraZeneca、GSK、Merck Frosst、Novartis、Pfizer、Sanofi-Aventis、Wyethなどがある。

ケベック市の保健・医療部門にはワクチン製造、委託研究、医療機器の診断分析および製造、医療技術などの雇用が集中している。製薬企業は2006年以降、ケベック州にある自社の製造設備に対し10億ドル近くにもものぼる投資を行っている。これは高度な教育や技術、専門知識を有する労働力が豊富に蓄積されていることに大きく起因する。ケベック市とその周辺地域にはAeterna Zentaris、Anapharm、GSKといった業界をリードする先進企業が多く集まっているほか、心臓病学、ゲノミクス、感染症、免疫学、肥満、腫瘍学、神経科学、機能性食品（健康食品）、栄養補助食品の最新技術の研究に特化した7つの研究センターがある。

ノバスコシア州

ハリファックス市には治療薬の開発や自然健康食品の製造販売に携わる多くの先進企業が存在する。Merck Frosst Canada、Kytogenics Pharmaceuticals、Ocean Nutrition、オメガ3サプリメントのカナダ最大のシェアを誇るAscenta Healthなどがその例である。さらにハリファックスには、脳修復分野における画期的な治療法や技術に特化した100人以上の世界レベルの研究者や医師が協力して集学的研究を行う脳修復センターがある。

手法の説明

このベンチマーク調査では、国際的な事業投資候補地と比較することで、カナダの様々な産業クラスターの競争力を評価する。この研究評価では投資家の視点に基づき、代表的な投資のモデルプロジェクト(新薬発見および臨床試験を中心に行うバイオテクノロジー研究開発施設、および研究開発や市販薬品製造に携わる完全統合型の医薬品事業 — 5ページのプロフィールを参照のこと)を用いて、対外投資の候補地を評価する際に企業の意思決定者が通常精査する投資先の要件について評価を行う。

今回の国際的な投資候補地のベンチマークは、世界的に有名な投資先調査コンサルティング会社 IBM-Plant Location International (IBM-PLI) に委託して実施した。IBM-PLI が行ったのは、企業の投資プロジェクトで候補を審査する時に、投資家が用いるアプローチで、様々な場所での事業運営のコストと質を比較・評価する調査。サブセクター別に、250から300の財務的、質的な投資先指標を検討した。

各対象地の事業運営環境の質を評価するために、5ページの運営環境表にある各カテゴリーのサブ要素別に、多彩な情報源からデータを集め、ウェイト付けスコアボード・アプローチで、カテゴリー別、サブ要素別に比較可能なスコア(0から10まで)に換算している。投資先の各カテゴリーと各サブ要素をウェイト付けし、場所の選定プロセスでの相対的な重要度を示した。この重要度は、各サブセクター固有の値で、場所の選定で戦略的決定を下す投資家の手助けをしてきたIBM-PLI の経験に基づいたもの。

高度な財務分析も、代表的なプロジェクト・プロフィール別に、場所に左右される主な投資コスト、運営コスト、収入を対象項目として実施した。10年間の予測キャッシュフローを、予想インフレ率を加味して算出し、その正味現在価値を求めた。



世界の様々な場所で
事業を運営した場合のコストと
質の比較をベンチマークする

INVESTMENT LOC



投資先のベンチマーク

代表的なプロジェクトのプロフィール

バイオテクノロジー研究開発 および臨床試験

事業の概要

新薬発見と臨床試験に標準を合せた研究開発施設

プロジェクト推進のための主要なポイント

- ▶ 高度な技能を持つ人材を確保できるか：専門研究員、研究者など
- ▶ 研究・技術（大学、インキュベーター、研究開発への資金援助など）へのアクセス

設備投資

300万カナダドル

営業費の分析

プロジェクトの財務モデルの要件

労務

（総員数=96人）

生物学者：20人
専門研究員／

技術者：50人
臨床研究者：15人
オペレーション・マネージャー：1人
一般事務員：10人

プロパティ

敷地：2エーカー
（約2,448坪）

事務所：7,500平方
フィート
（約210.8坪）

水道光熱

電気（1カ月の使用量）：
60,000 kWh

水道（1日の使用量）：
12,000ガロン
（約54.55立方
メートル）

代表的なプロジェクトのプロフィール

完全統合型の医薬品事業

事業の概要

市販薬の研究、開発
および製造

プロジェクト推進のための主要なポイント

- ▶ 熟練労働力を確保できるか：科学者、技術者、現場作業員
- ▶ 海外の人材を誘致できるだけの魅力があるか
- ▶ 研究・技術（大学、インキュベーター、R&Dへの資金援助など）へのアクセスがあるか

営業費の分析

プロジェクトの財務モデルの要件

労務

（総員数=400人）
現場作業員：250人

上級科学者：50人
検査技師：45人
エンジニア：30人
一般管理部門：25人

機械設備

200,000,000カナダ
ドル

売上

120,000,000カナダ
ドル

プロパティ

土地：50エーカー
（約61,210坪）

建物：270,000 平方
フィート
（約7,588坪）

水道光熱

電気（1カ月の使用量）：
400,000 kWh
ガス（1カ月の使用量）：
8,000MCF

（約226.5百万立方
メートル）

水道（1日の使用量）：
200,000ガロン
（約909.2立方
メートル）

事業運営環境

一般的なビジネス環境 ▶ 10%^{*1}

- ▶ 資金援助・奨励策の有無
- ▶ 地方自治体・地元開発局による支援の質
- ▶ 個人情報保護に関する法令、情報セキュリティ、知的財産権の保護策の順守状況
- ▶ 政治的安定性
- ▶ 経済的・財政的安定性

地元で熟練スタッフを採用できる可能性 ▶ 30%^{*1}

- ▶ 経験を持つ従業員の存在（製薬およびバイオ技術関係）
- ▶ 学生の多さ
- ▶ 労働力プール全体の規模
- ▶ 労働市場全体の逼迫状況（失業者数）

産業力／クラスターの存在 ▶ 30%^{*1}

- ▶ 研究開発の重要性
- ▶ 金融機関／監督機関への近接性
- ▶ 産業基盤の存在
- ▶ 市場への近接性（顧客／供給業者との交通の便）

労働と規制の弾力性 ▶ 5%^{*1}

- ▶ 雇用と解雇の自由度
- ▶ 就労許可
- ▶ 労働時間に関する法規
- ▶ 労使関係／労働組合の姿勢

インフラと通信 ▶ 10%^{*1}

- ▶ 空路のアクセス
- ▶ ITと通信の質と安定性
- ▶ 公共交通機関
- ▶ ハイウェイ網と渋滞状況
- ▶ 電力供給の安定性

生活環境 ▶ 15%^{*1}

- ▶ 海外の新卒者を誘致できる魅力
- ▶ 海外赴任者にとっての魅力

事業運営環境

一般的なビジネス環境 ▶ 15%^{*1}

- ▶ 地方自治体・地元開発局による支援の質
- ▶ 資金援助・奨励策の有無
- ▶ 営業許可の手続き
- ▶ 個人情報保護に関する法令、情報セキュリティ、知的財産権の保護策の順守状況
- ▶ 政治的安定性
- ▶ 経済的・財政的安定性

地元で熟練スタッフを採用できる可能性 ▶ 30%^{*1}

- ▶ 製薬産業の経験を持つ従業員の存在（研究開発および製造）
- ▶ 労働力プール全体の規模
- ▶ 労働市場全体の逼迫状況（失業者数）
- ▶ 学生の多さ

産業力／クラスターの存在 ▶ 10%^{*1}

- ▶ 産業基盤の存在
- ▶ 市場への近接性
- ▶ 研究開発の重要性

労働と規制の弾力性 ▶ 15%^{*1}

- ▶ 労働時間に関する法規
- ▶ 雇用と解雇の自由度
- ▶ 労使関係／労働組合の姿勢

インフラと通信 ▶ 20%^{*1}

- ▶ ハイウェイ網と渋滞状況
- ▶ 空路のアクセス
- ▶ 電力供給の安定性
- ▶ ITと通信の質と安定性
- ▶ 公共交通機関

不動産 ▶ 5%^{*1}

- ▶ 大規模な工業用地の有無

生活環境 ▶ 5%^{*1}

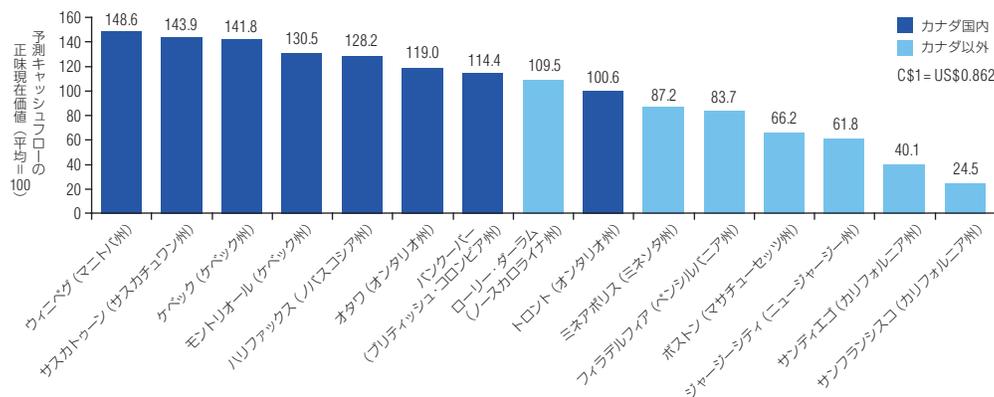
- ▶ 海外の新卒者を誘致できる魅力
- ▶ 海外赴任者にとっての魅力
- ▶ 生活費



カナダのバリュー・プロポジション

カナダが有する最先端の研究プログラムや強力な資金援助、およびベンチャー・キャピタル・プログラムなどにより、バイオ医薬業界における顕著な存在としてカナダの国際的存在感は着実に増大し続けている。カナダには完全統合型の医薬品企業の成長と発展に最適な、コスト面で競争力の高いロケーションおよび高品質な事業環境という条件が揃っているため、投資家にとって魅力的な投資先となっている。

運営コスト正味現在価値^{※2}

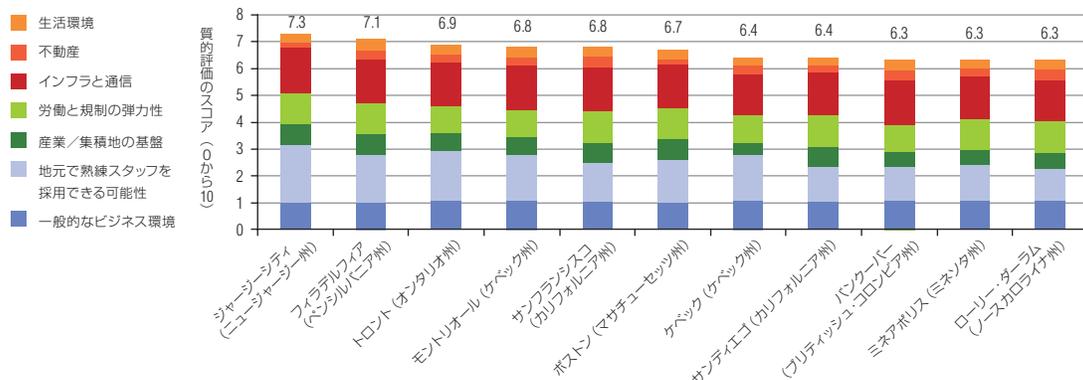


投資リターンが大きい

IBM-PLIによるベンチマーク測定を受けた北アメリカやG7のロケーションに比べ、カナダにはコスト面で最も競争力の高いロケーションが存在する。ウイニペグ市、サスカトゥーン市、ケベック市はカナダでも上位に位置する都市で、コスト面で他の競合都市に比べ格段に有利な投資先となっている。大規模なバイオ医薬産業クラスターであるモン

オール市やトロント市を含む、ベンチマーク評価の対象となったすべてのカナダ都市はキャッシュフローおよび運営コストの財務分析に基づいた結果でトップ10にランクインした。低率の法人税および豊富な研究開発インセンティブが存在するカナダ都市は、投資家の費用構造を最適化するのに役立っている。

ビジネス環境の質的評価^{※2}



専門技術が豊富に存在する強固な産業クラスター

コスト面で競争力の高いロケーションが存在することに加え、カナダではバイオ医薬企業に対し世界でも最高レベルの事業運営環境を提供している。ともにバイオ医薬分野のトップ企業を数多く擁するトロント市およびモントリオール市は北米で最上位候補地にランクインした。他のカナダ都市、特にケベック市やバンクーバー市でも、安定した質の高い環境を提供している。また医薬品業界に精通した労働力雇用の可能性もこの評価の重要な考慮事項となっており、トロント市、モントリオール市、

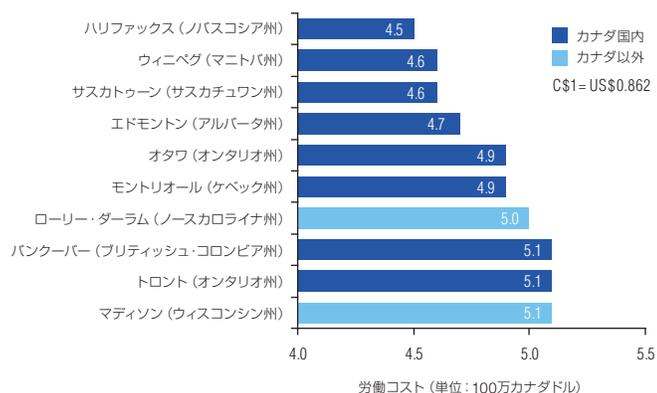
ケベック市はこの点で高スコアを記録している。全体として、カナダ都市はR&Dの質、および高速道路への容易なアクセス、交通渋滞の少なさ、地元での確実な電力供給といったインフラストラクチャーの質についても優れたスコアを記録しており、同産業部門への投資を促進する条件が揃っている。また、EU・カナダ航空輸送協定が新たに締結されれば、カナダの対EU貿易の拡大に弾みがつき、EU・カナダ間の人や物品の流れの効率化が進む。

※2：特に注記がなければ、グラフはIBM-PLIの評価スコア。

カナダのバリュー・プロポジション



バイオテクノロジー研究開発事業の推定年間労働コスト (上位都市)^{※1}



有利な労働コスト

新薬発見および臨床試験を中心に行う典型的なR&D施設における推定年間労働コストの計算では、カナダ都市で顕著なコスト節約の可能性が見られた。IBM-PLIの調査を受けたすべてのカナダ都市がトップ10にランク入りし、フィラデルフィア、ボストン、ジャージーシティといった競合する著名な米国の都市よりも低コストとなっている。

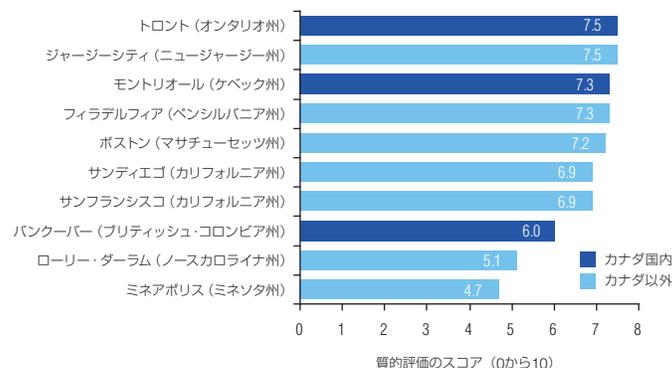
米国と比べた場合、カナダの労働力コストの利点の重要な要素に、従業員の福利厚生費の安さがある。カナダの医療制度では、多くの医療保険のコストは雇用者負担ではなく公的に支払われるため、経費の大幅な節約が可能になる。

好況なバイオ医薬クラスター

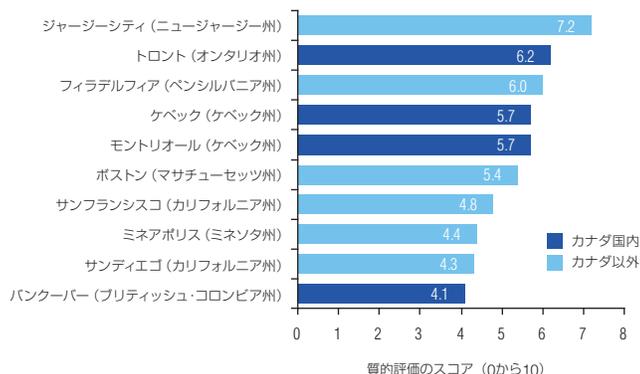
製薬企業が集まるクラスターが存在することで、バイヤー、サプライヤー、その他機関との密接なつながりが生まれ、効率性に優れるほか、製品改善や革新の加速にもつながる。

カナダは世界で第2番目に多くのバイオテクノロジー企業を有し、医薬産業のなかでも最大規模のクラスターがいくつか存在する。製薬業として分類される機関数の公式記録^{※3}によると、トロント市およびモントリオール市は北米で最も著名な医薬業界基盤であるニュージャージー州のジャージーシティに匹敵していることが分かる。

バイオ医薬産業基盤 (上位都市)^{※2}



地元で熟練スタッフを採用できる可能性 (上位都市)^{※2}



豊富な人材

経験豊かな臨床医や研究員の存在は研究開発活動の成功につながる。大学への近接性や学生人口は高度な教育を受けた労働力の供給源として重要であることに加え、保健衛生リサーチや研究の試験集団としても重要である。高等教育において世界1位^{※4}のカナダは、高度な教育を受け、士気にあふれ、多様な人材が豊富である。

トロント市、モントリオール市、ケベック市、バンクーバー市には医薬関連およびバイオ医療関連企業で働く多くの経験豊かな従業員が存在するほか、学生人口も高く、常に新しい人材を確保することが可能である。

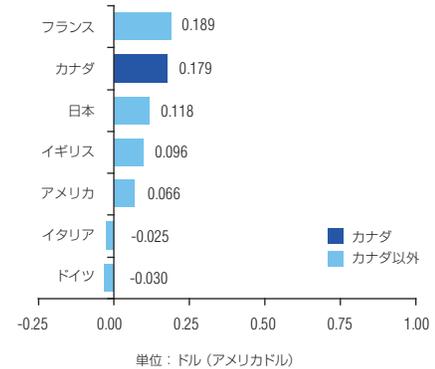
※1: IBM-PLIの計算はWatson Wyatt 2007/2008およびEconomic Research Institute (ERI) 2008に基づく。 ※2: 特に注記がなければ、グラフはIBM-PLIの評価スコア。
 ※3: NAICS 3254に属する機関。 ※4: IMD World Competitiveness Yearbook, 2007年。

豊富な研究開発インセンティブ

研究開発および革新はバイオ医薬企業の成長に重要不可欠である。そのためカナダでは、毎年研究開発に対する多額の資金投資が行われている。これにより投資家は世界でも最高峰の人材やインフラストラクチャーへのアクセスが確保されている。カナダでは国家および州により様々な研究開発費用に対して税還付や税額控除が設けられており、グローバル企業に対して多大なコスト削減の機会を提供している。

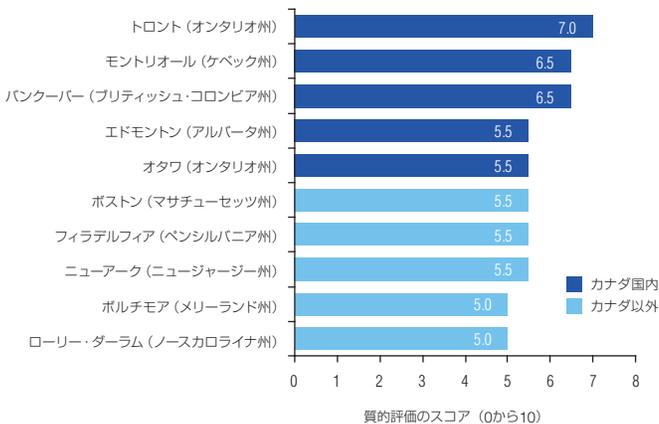
カナダの科学研究および実験開発(SR&ED)プログラムは、給与や間接費、資本設備や資材など様々な研究開発関連コストの20%を控除対象とする無制限の税優遇策である。SR&EDプログラムを使用することにより、企業からカナダへの直接投資、あるいは業務委託による研究開発費用を削減することが可能になる。

R&D、大企業およびSMEへの1アメリカドルに対する税金扶助率(G7諸国)^{※5}



学生人口

(上位都市)^{※6}



人的資源における利点

カナダは国民に投資し、世界中から逸材を迎え入れることが重要であると考えている。このことはカナダにおける学部卒業生や、企業成功に役立つ高度な教育を受けた有能多様で士気の高い労働力の割合が世界でも最高レベルであることから分かる。

IBM-PLIのベンチマーク調査ではカナダの5都市がライフサイエンス関連の学部卒業生数の第一位としてランク付けされている。トロント市、モントリオール市、バンクーバー市、オタワ市、エドモントン市はすべて生物学、生物医学および一般的なライフサイエンス学部がある大規模な大学を有し、この産業へのコンスタントな人材供給が可能となっている。

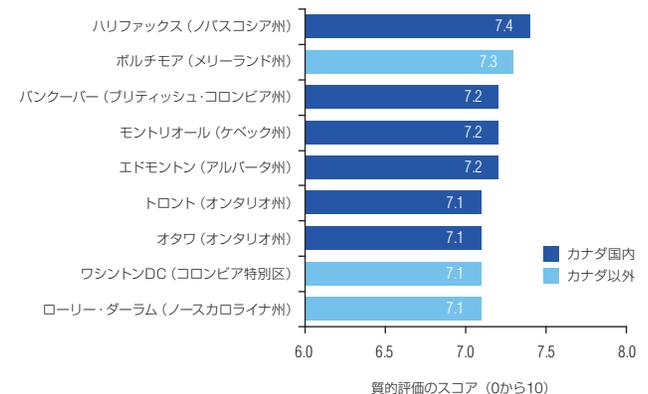
G7の中でも最も有利な事業展開の場

カナダには安定した活力に満ちた経済、低率の法人税、そして研究開発に対する手厚いインセンティブが存在する。これに加え、地域政府や開発機関からの高品質なサポート、プライバシー規定、情報セキュリティ、知的財産権の保護など、カナダには企業投資や成長を促す有利なビジネス環境環境が整っている。

過去10年間でGDP成長率がG7の中でもトップとなり、また世界で最も安定した金融システム^{※7}を誇るカナダは、事業投資を安心して行うことができる安定し、強力なビジネス環境を提供している。

一般的なビジネス環境

(上位都市)^{※2}



※5 : OECD Science, Technology and Industry: Scoreboard 2007.

※6 : National Center for Education Statistics, Integrated Postsecondary Education Data. その他の資料。

※7 : World Economic Forum Global Competitiveness Report 2008年-2009年、2008年10月。

カナダ投資局が お役に立ちます

当局が提供するサービスの一覧：

- 各部門の市場に関する戦略的情報収集
- 政府の主要な意思決定者との直接的なコンタクト
- 民間部門・業界団体の連絡窓口および専門家の紹介
- カナダでの事業立ち上げに関する情報とアドバイス
- 投資に適した戦略的投資先を見極めるお手伝い
- 次の投資決定に役立つビジネスケース作りのお手伝い

事業を成長させるうえで、カナダを選ぶことがなぜ戦略的に有利なのかは、
当局のグローバル・ネットワークをご覧ください。

www.investincanada.com/globalnetwork

お問い合わせの際は下記までご連絡下さい。

在日カナダ大使館 投資・科学技術部

〒107-8503 東京都港区赤坂 7-3-38

電話：03-5412-6419

03-5412-6480

ファックス：03-5412-6254

Email: tokyo.its@international.gc.ca

URL: www.investincanada.gc.ca

www.japan.gc.ca

カタログ番号：FR5-38/4-2009J-PDF

ISBN：978-0-662-03243-4